Creative Enzymes®

# ヒト因子IX

*Cat. No. CZY-002*

*Lot. No.* (See product label)

## *はじめに*

| | |
|---|---|
| *□明* | ジモゲン因子IXは、肝臓で合成される単一鎖のビタミンK依存性糖タンパク質です。因子IXのドメイン構造は、他のビタミンK依存性凝固因子と類似しています。NH2末端領域には、因子IXが負に帯電したリン脂質表面にカルシウム依存的に結合するのを助ける12のγ-カルボキシグルタミン酸（gla）残基が含まれています。表皮成長因子（EGF）にホモロジーのある2つのドメインが、NH2末端glaドメインと活性化ペプチド（Ala-146からArg-180）との間の領域を跨いでいます。因子IXは、因子XIaまたは因子VIIa/組織因子/リン脂質複合体によって活性化されます。サイトAでの切断（図を参照）により中間体IXaが生成され、その後サイトBでの切断によって完全に活性な形態IXaβに□換されます。NH2末端の□鎖（GLAおよびEGFドメイン）は、二硫化結合によってCOOH末端の重鎖に共有結合的に付着したままです。セリンプロテアーゼ触媒トライアド（Ser-365、His 221、Asp-269）は重鎖に位置しています。因子IXaβは、「内因性因子Xase複合体」（因子VIIIa/IXa/Ca2+/リン脂質）の触媒成分であり、因子Xを因子Xaにプロテオリティックに活性化します。ヒト因子IXは、従来の手順と免疫親和性クロマトグラフィーの組み合わせによって新鮮凍結血漿から調製されます。ウシ因子IXは、Fujikawaらによって記述された方法の修正によって新鮮なクエン酸ウシ血漿から調製されます。精製されたタンパク質は50%（体積/体積）のグリセロール/H2Oに供給され、-20°Cで保存する必要があります。純度はSDS-PAGE分析によって決定され、活性は因子IX凝固アッセイを使用して測定されます。 |

## *製品情報*

| | |
|---|---|
| *由来* | 人間 |
| *製剤化* | 50% グリセロール/水 (v/v) |
| ***CAS*登□番号** | 9001-28-9 |
| *分子量* | 55000 |
| *純度* | >95% SDS-PAGEによる |
| *比活性* | 258 U/mg |
| *濃度* | 5.1mg/mL |
| *等電点* | 4.2-4.5 |
| *構造* | 単一鎖、NH2末端Glaドメイン、2つのEGFドメイン |
| *緩衝液* | 50% グリセロール/ H2O (体積/体積) |
| *局在* | プラズマ |
| *消光係数* | 13.2 |
| *糖質含有率* | 0.17 |
| *翻訳後修飾* | 1つのβ-ヒドロキシアスパラギン酸、12のGla残基 |

## *使用法とパッケージング*

| | |
|---|---|
| *包装* | 100 µg |

## *保管・発送情報*

| | |
|---|---|
| *保存方法* | -20°C |
| *安定性* | 12ヶ月 |